

○ 命のつながりを学び育てる環境教育 ～^{あまがさき} 尼崎市立^{せいりょう} 成良中学校～

本校は、^{はんしんこうぎょうちたい} 阪神工業地帯の中心として^{はんえい} 繁栄してきた地域の中にあり、「命の尊さ」を根底に^す 据え、専門家や市民との協働で、^{じゅんかんがたしやかい} 循環型社会の構築につながる体験型の環境学習に取り組んでいる。平成 24 年、本校は「ユネスコスクール」に認証され、積極的な活動を展開している。

【活動例】

- ・チッソやリンを吸収させてワカメや貝類を育て、それを原料にして^{たいひ} 堆肥を作り、作物を^{さいばい} 栽培する。
- ・巣箱の製作や観察活動から、自然と生物多様性について学ぶ。
- ・「環境」をテーマにしたフォーラムを^{かいさい} 開催する。など



尼崎港でのワカメの収穫



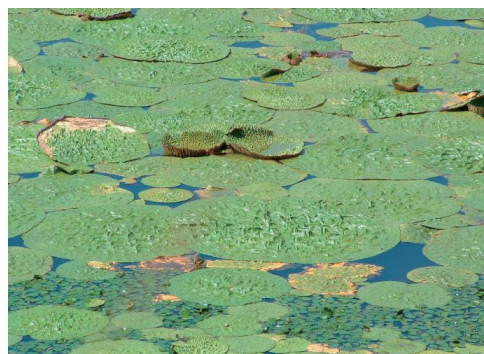
生徒主体の環境フォーラムの様子

○ 地域を知ろう ため池学習 ～^{あかし} 明石市立^{えいがしま} 江井島中学校～

学校近くにはいくつものため池があり、そこに生息するオニバスなどの貴重な生物やため池の役割について学習している。これらの学習を通じて、身の回りの自然を再発見し、ため池とともに生きてきた先人の生活の^{ちえ} 知恵への理解を深めている。



ため池の調査



ため池のオニバス

オニバス

スイレン科の一年草で、日本の水生植物の中で一番大きな約 2m の葉を夏ごろにつける。全国では約 100 か所程度しか生息が確認されない希少な植物であり、本州（現在では新潟市が北限）、四国、九州の^{ぜつめつ} ため池に^{きく} 生息する。環境の変化により、絶滅が危惧されている。



- ① 自分たちの身近に残っている自然を探してみましょう。
- ② 身近で行われている自然保護や環境保全の活動を調べてみましょう。また、自分たちが取り組める自然保護や環境保全の活動を考えてみましょう。

◆自然と人間の暮らし

持続可能な社会

今から 100 年後の地球はどうなっているでしょう。今を生きる私たちは、同時に、未来に生きる人たちのことも考えなければなりません。

国の環境基本計画（現在第 4 次まで策定）では、「持続可能な社会」とは、「健全で恵み豊かな環境が地球規模から身近な地域までにわたって保全されるとともに、それらを通じて国民一人一人が幸せを実感できる生活を享受でき、将来世代にも継承することができる社会」と定義しています。現在私たちは、化石燃料などの資源を消費して生活しています。しかし、その資源には限りがあり、いつかはなくなってしまいます。自然環境を守ることは、私たちの生命への配慮であり、地球上のすべての人々の人権を守ることに密接にかかわっています。再生可能エネルギーの利用などにより環境への負担を少なくし、人間と自然の共生を維持しなければなりません。

日本は、2002（平成 14）年の第 57 回国連総会において、2005（平成 17）年からの 10 年間で「持続可能な開発のための教育の 10 年」とする提案をし、満場一致で採択されました。

また、その後、2011（平成 23）年 3 月 11 日に発生した東日本大震災が、「持続可能な社会」をめざそうとする動きへの関心をさらに高めることとなりました。

- ①「持続可能な社会」を実現するために自分にできることを考えてみましょう。
- ②「再生可能エネルギー」について調べてみましょう。

自然保護や環境保全の取り組み

○ 成ヶ島クリーン作戦 ～洲本市立由良中学校～

生徒会の自主活動として、校区にある貴重な自然が残る成ヶ島をきれいにする活動（「クリーン作戦」）を長年にわたって行っている。町中の清掃がきっかけとなり、広く地域の各種団体と連携を進め、環境保全活動に発展した。

まとめの冊子には、「ごみは絶対に捨てない。」「島を守っていくのは自分たちだ。」などの意見がつつられている。

成ヶ島

由良沖に、約 2.5km に渡って砂洲が延びる無人島。ハマボウやハクセンシオマネキなど、兵庫県版レッドデータブックに掲載されている貴重な動植物が生息している。



ハマボウ



ハクセンシオマネキ



クリーン作戦の様子



成ヶ島全景